

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・昨年は3月に実施したイベントを今年は4月に実施したので、来客数が前年を大幅に上回り、それに伴って売上も増加した。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候が良かったこともあり、来街者が増加している。売上もそれに応じて増えている。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・春になって観光客の出足も良く、来客数が増加している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・購買点数は前年比103%と増加している。一人当たりの買上点数は上昇傾向をうかがえる。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・青果・水産とも単価は前年並みにかかわらず、販売点数が1～1.5ポイント上回っており、客単価も同様の伸びがみられる。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・野菜や花の苗等、競合店があるにもかかわらず、動きが良い商品がある。また、屋外の活動が活発になるにつれ、飲料が好調になっている。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・外食店舗の駐車場がいつも一杯になっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気候が暖かくなり、来客数は伸び始めている。ただし単価的にはまだまだ低く、前年割れが続いている。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・気温の上昇と共に初夏物が売れ出している。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・テレビは大型インチ数の商品が良く動き、冷蔵庫・洗濯機も大型商品が動いている。
		乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・個人レベルでも就職などに明るい兆しがあり、また、新規出店などの話を聞くことが多い。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・修学旅行シーズンを迎えて昨年の10%増しで受注がきており、ゴールデンウィークの予約状況も昨年より若干良い。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客は前年に比べ微増しており、婚礼の受注も順調である。レストランでは客単価が低下しているが、来客数が増加している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量・来客数共に増加している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新学期が始まり、インターネット接続回線の販売が、順調に推移している。
		テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・春イベントの実施及び園内のリニューアルにより、春休みころから前年を上回るペースで入園者が推移している。春休み後もその傾向は続いている。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・2～3か月前に比べて、客の動きが良くなってきた。		
変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・全体的に変わらない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客は何か必要があった時にだけ、物を購入するという感が見受けられる。3か月前は正月明けで購買意欲が見られたが、何もないとまだまだ低い。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・新学期用の入学カバンが、高い物と安い物とに二極分化している。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・年々単価が非常に厳しくなっている。客はその単価以上の付加価値を見いださないと購入には至らない。2～3年前に比べて、その付加価値のラインが3割ほど上がっている感がある。デフレ傾向で非常に厳しい。	
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	お客様の様子	・4月に入り春の異動も終わると、法人関係の注文がまた減少した。	
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数が厳しい状態で推移している。さらに2月の春商戦以降、客の購買時の、「価格」へのこだわりがより顕著になっており、紳士、婦人のファッション部門の動きが低迷している。また従来堅調であった、宝飾、美術等の高級品の動きも外商活動中心に、マイナスに転じてきている。	

百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・今年に入り売上高が伸びず、前年比を下回る状況が続いている。気候が不順であることが原因か、よく分からない。全国的にもアパレルの売上が芳しくない。ただし悪いと実感できるほどのものではない。
百貨店（売場担当）	単価の動き	・4月前半は気温が安定せず、暖かかったり寒かったりしたので、春夏物の動きが悪く、全体では変化がない。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事の集客も悪く、販売量も少ない。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・季節物の動きが悪く、サンダルの売上が前年比80%で推移した。特にキャリアブランドが悪く、4月の上旬も比較的好調なミセスが更に動きが出ず、気温が25を超えのを待つ状態である。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・婦人服業界は気温に左右されたのか、特にヤングについては売れ筋のTシャツやワンピースの動きがなく、ヒット商品も生まれず、かなり厳しい状況であった。子供服については、少子化で一人の子供にかけた費用は年々上昇している。また、催事で北海道物産展を実施したが大変好評で、客は消費において衣料品より、食の方をかなり高い位置においている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ半年間くらい販売点数が102%、来客数が101%くらいで推移している。ただし、客単価が98%と減少している。
スーパー（店長）	単価の動き	・前月までは売上・単価共に前年比100%をクリアしていたが、4月は98%とダウンした。家の固定資産税の納付等で、客の購買意欲が低下していると思われる。また、4月から新規客の増加も見受けられるが、単価は低下しており、ほぼ前年並みで推移している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・価格訴求を強化したチラシ効果により、来店客数も増加し、売上も前年を上回るが、それでも客がいくら価格が安くても必要な物以外は買い控える傾向は、相変わらず強い。
スーパー（店長）	来客数の動き	・客の一人当たりの買上点数は横ばい状態で大きな変化はなく、また、客単価も変わらない。
スーパー（店長）	単価の動き	・一品単価・買上点数に伸びがなく、3か月前に比べても変化がない。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・既存店ベースで言えば、売上は若干のマイナスで推移している。
スーパー（財務担当）	販売量の動き	・一点単価は前年より若干上がってきたが、買上点数が前年をやや下回っている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数に大きな変化はないが、一人当たりの買上点数が大幅に減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価に比べ、客数の落ち込みが顕著になってきている。百貨店・大規模スーパーに比べて幅広く来客数を確保しなければならない業態において、まだまだ景気回復とはいえない。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は前半は天候不順もありあまり良くなかったが、中旬で持ち直し、後半は前年比を上回った。また、後半には連休に向けての注文も入っている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・売上は変わらないが、来客数は減っている。
衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・今月は日中が暖くなり、来客数が増加した。ただし、夜の寒さのせいも、様子見の客も多い。これから本格的に暑くなれば、人の動きも増える。
家電量販店（店長）	単価の動き	・販売量はあっても、単価の低下により、前年並みの売上を維持することが厳しい。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・なかなか商品の成約に至らず、客の財布のひもは固い。
家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・薄型テレビなどの映像商品の伸張は、年末商戦で一服した模様である。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月の総受注は前年比82%と、引き続き厳しい状況となっている。
乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・高額車両の動きが鈍い。
乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・前年比80%ぐらいの販売量で推移している。これはこの3か月ぐらい変わっていない。

住関連専門店 (広告企画担当)	お客様の様子	・とにかく価格を比べて店舗をまわるといった感覚が定着しており、見せ掛けの安さにつられてはいる客も多く見受けられる。	
その他専門店 [時計](経営者)	お客様の様子	・客にアプローチして商品提案すると購買につながる反応があるが、客自らの購買動機を感じられない。	
その他専門店 [カメラ](店長)	来客数の動き	・来客数が前年を下回った状態が続いている。	
高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は、前年よりは多少良いが、まだまだ先行き不透明で何とも言えない状況である。	
スナック(経営者)	来客数の動き	・年度末の異動で歓送迎会もあり、客の動きが少し良くなり、客単価も上昇した。	
その他飲食[ハンバーガー] (経営者)	来客数の動き	・3か月前と同じで、来客数の増加が続いている。	
観光型ホテル (経理総務担当)	お客様の様子	・宿泊、宴会、料飲の主要部門において、現段階で前年比でマイナスの売上となっている。婚礼部門は前年比と同水準も、下期は不透明であり、今後の予約もそれほどの期待は出来ない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・天候に恵まれ、花見や夜の市内観光の客は例年になく多いが、日中の観光客が大変少ない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・来客数が落ち込んでいる。平均単価も上がっており、客数の落ち込みがそのまま売上の減少につながっている。	
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・年度替わりを迎えて、異動に関わる契約以外に特に大きな変化はなかった。	
通信会社(総務担当)	お客様の様子	・区域外への転出による解約は落ち着き、逆に転入等による契約獲得が増えているものの、期待ほどの勢いはない。	
テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・春に開催している一大行事はもう少し来客数の増加を期待はしていたが、思ったほどの反応がない。それでも昨年の同時期よりは回復しており、長期的にみれば昨年後半ころから引き続いてゆったりした回復傾向が続いているのではないかと。	
美容室(経営者)	単価の動き	・パーマメニューが単価アップに欠かせない大切な要素だが、意外に伸び悩んでいる。	
設計事務所(経営者)	販売量の動き	・客の購買意欲が相変わらず弱い。	
設計事務所(経営者)	販売量の動き	・建築関係において年度末の公共事業の発注がやや安定してきて、新年度に入ってから発注物件が少なくなってきた。	
設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・仕事(建築)の発注がない。	
住宅販売会社 (販売担当)	お客様の様子	・イベント等への来場者数は、前年比約1割増であるが、契約までにはなかなか至らず、慎重な客が多い。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街への来街者が非常に少なくなっている。
	一般小売店 [茶](経営者)	販売量の動き	・我々業界の今春の状況は、去年の春よりも動きが悪い。これから新茶の時期であるが、盛り上がっていない。商店街も大変静かで、唯一「天神市」が賑わっている。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・天候不順も影響し、来客数・販売量とも3か月前と比較し減少している。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・自社カードの優待期間や常備バーゲン催しの時には、かさ上げで売上は伸長したが、プロモーションの前後の落ち込みが激しく、集客策を加えて前年並みである。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・今月については衣料品・身の回り品共に初夏ものの動きが前年に比べ非常に悪かった。月初あたりのリクルート・フレッシュアズ関連商品も全く動かず、また比較的売上の安定していた化粧品も大苦戦を強いられた。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数の前年比が3か月前と比較し、1.8%の減少。前年を割っているような状況である。そのため、売上前年比も前年を割れており、厳しい状況となっている。

		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・前年を大幅に割り込んでいる状態が続いている。ガソリンの高値安定が続き、軽自動車へのシフトが加速している状況である。業界としては、景気の回復は実感できない。
		乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・管理内容の来客数が少ない。よって、販売台数も伸び悩んでいる。
		自動車備品販売 店(経営者)	来客数の動き	・この時期は冬用タイヤからの履き替えによる来店とそれに伴う売上も見込めるが、暖冬の影響で冬期の商戦が低調で、3月でその履き替え需要も終わるため前年を下回る状況になっている。
		その他専門店 [布地](経営 者)	お客様の様子	・これまで商品の単価を聞かなかった客が多かったが、最近は単価を気にする客が多くなってきた。
		一般レストラン (店長)	来客数の動き	・平日はほぼ前年並みであるが、日曜日のファミリー層が激減している。家族での外食回数が減っている。
		旅行代理店(経 営者)	来客数の動き	・新年度が始まって受注量が減少している。統一地方選挙のせいかもしれないが、やや景気が悪いように感じられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・最近、客の会話からは景気の話は全く聞かれない。市議員選挙の影響もあったようであるし、歓迎会も少なく、前年比2～3%の売上ダウンになった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・統一地方選挙等もあり市場は低迷しているが、選挙終了後も景気の良さは実感できない。日中の観光、夜の繁華街共に売上は伸びていない状況である。
		競艇場(職員)	来客数の動き	・来客数の動きに比例して、発売金額も減少した。
		美容室(経営 者)	競争相手の様子	・同業者の話でも、景気が悪いという話をよく耳にする。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・来場者数は、3か月前より2割減。客の反応も薄い状況ができてきている。
	悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・商店街の来客数が激減。移動のシーズンにもかかわらず、季節商材の動きも悪い。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・客の買物に対する意欲が全く感じられない。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・4月に入りビジネス客の予約が前年と比較して、大きく落ち込んでいる。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	電気機械器具製 造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・自動車関連は国内・欧米とも好調な受注が続いている。携帯関連もワンセグ対応等引き続き受注がおう盛である。
		輸送用機械器具 製造業(経理担 当)	それ以外	・5月に量産開始の新製品の対応準備が大詰めを迎えている。
		その他製造業 [スポーツ用 品](総務担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・受注量にはまだ波はあるが、ある程度安定してでてくるようになった。
		通信業(支社 長)	取引先の様子	・新生活が始まった社会人、学生を中心に光電話の申込が殺到している。工事も班数を増やす等対応しているが、開通待ちの状況が続いており、嬉しい悲鳴をあげている。
		通信業(営業企 画担当)	受注量や販売量 の動き	・18年度の法人向け通信サービス販売量は、当初予測に対してわずかながら上回った。従来型高額商品の減少ペースが鈍っていることもあるが、企業等のネットワークは冗長化や、複数サービスの混用などが広がりつつある。
	変わらない	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・ここ数か月の動きは昨年に比べるとやや上向きにはなっているが、一時的な期間限定商品の受注・発注の数字が良い影響を及ぼしているにすぎない。
化学工業(総務 担当)		受注量や販売量 の動き	・自動車関連及び精錬所関連からの受注は好調であるが、その他については大きな変化はない。	
鉄鋼業(総務担 当)		受注量や販売量 の動き	・フル操業の状況が継続しており、景気動向については変わりない模様である。	
鉄鋼業(総務担 当)		受注価格や販売 価格の動き	・受注価格には、原材料の高騰を一部反映できるものの、コスト低減に対する顧客の要請は強い。また高いコストでは海外製品に太刀打ちできなくなる恐れがある。	

	金属製品製造業（総務担当）	取引先の様子	・工場はフル操業で対応しているが、受注量は生産能力以上あるため、得意先から「お宅からの調達にネックになっている」と言われている。当社としても今以上に対応したいが、設備投資や人的資源の投入が必要となり、すぐにはいかない点が悩ましい。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・自社製品の売上について言うと、海外向けに関しては受注も増加し堅調に推移しているが、国内向けは引き続き業界全体の市場環境悪化に伴い、厳しい状況が続いている。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量・受注価格共に横ばいの状態が続いている。一方、石油製品や鉄鋼製品と原材料価格は値上がりしており、賃上げの負担増など厳しい状況が続いている。	
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要取引先の輸出好調を受けて、受注は高水準で推移している。設備投資による増産効果に加え、コスト削減の効果も加わり、増益基調が持続している。	
	金融業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・建設業においては、これまで受注していた額が赤字であった。工事がある間はまだまだ金がまわるが、工事がなくなると赤字のつげがまわってきて、資金繰りが苦しくなるという状況が見受けられる。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・4月度は、毎年年度末の反動で売上高が低下する月だが、製造業に関しては、今年は予想したよりも落ち込む額は少なかった。反面、小売・卸業は苦戦が続いている。	
	その他サービス業〔清掃具レンタル〕（情報管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・カタログ商品は、値段は高くても良い商品・こだわりのある商品は売れる傾向にある。	
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が減少したままで回復が見込めない。新規引き合いも少ない。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・メインの自動車産業の生産が下降気味であり、人の動き・受注共に下降気味である。	
	コピーサービス業（管理担当）	取引先の様子	・仕事の引き合いが全くない。	
悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・沖合底引網船は前年並みで推移しているが、地元巻き網船やイカ釣り船が不振である。全般的に水揚げ数量は減少している中、喜ばしいこととしては、今月定置網に大型ブリが水揚げされ浜は活気づいた。また、今月中旬本来の漁場でない島根・鳥取県沖でニシンが捕れるという異常現象があった。同じく冬場に水揚げされるハタハタもこの時期に水揚げされている。一時的なものではあるだろうが、この奇怪な現象は無気味である。	
	輸送業（統括）	取引先の様子	・高収益を挙げていた客が、他業者へ取扱いを変更した。	
雇用関連	良く なっている	職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・企業の採用意欲が活発で、この事は新規・有効の求人数増に端的に現れている。企業の正社員雇用の高まりと併せて、外部労働力（労働者派遣・業務請負）の活用も更に促進する。
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・新卒を確保できない企業においては、派遣スタッフを正社員へ切り替えるケースが増え、人材紹介も活発になっている。特に製造業からは現場の人員不足が深刻のようで、人材を採用するために採用基準を下げるような動きもある。
		人材派遣会社（担当者）	雇用形態の様子	・人材の依頼について、派遣依頼のみから、社員採用の依頼が少しずつ出始めている。
		求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・合同説明会等の新卒採用企画について、企業の検討期間が短くなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・これまで動きが鈍かったサービス業の求人広告が、かなり増えてきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・本学に求人がきている企業件数が、4月25日現在で昨年の20%増である。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣の受注が横ばいである。

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・企業は若干経営状況が良くなっているようだが、それが給料に反映されていない。その分消費に反映されず、雇用にも影響がある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・コンビニ新規オープンに伴う募集などで小売業、及び業務請負の電子部品製造業で大幅増員がなされるなど、求人全体では若干増加傾向にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は増えているが、臨時の求人が多く、定着性に欠ける内容となっている。そのため在職者の求職申込件数が増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、3か月前及び前年同月に比べて増加している。内容的には、正社員の求人が増加し、パートなどの求人が減少している。また、派遣求人については、申込時に見込み求人の確認を行なうこととしたため減少している。
	民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・比較的優秀だと思われる人材でも内定を得るのに苦労している。第二新卒含め若手に対する採用意欲は高いが、30代後半以降に対してはこれまでどおり厳しく査定される。
	民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・企業からの正規雇用者の求人は増えている。しかし採用基準を下げても採用することは皆無に近いので、景気の回復には直接結びついていない。
	やや悪くなっている	-	-
	悪くなっている	-	-